

創立45周年記念大会 (全員発表研修会)

日時：令和元年7月14日(日)、15日(月・祝)
場所：東京ミッドタウン日比谷



上原 久晴
(京都府)



矢田 孔太郎
(滋賀県)



乙部 朱門先生が1974年に創立された日本インプラント臨床研究会の、45周年記念大会として第14回全員発表会が東京ミッドタウン日比谷にて執り行われた。

今年は過去最高の159人の発表者の演題が集まり、「21世紀版重要12キーワード240論文」の発刊も記念しており、例年にも増して盛大に開催された。

田中 譲治会長による開会の挨拶のあと、当会ペリオの雄・岩野先生が切り込み隊長としてオープニングを飾られ、日本のインプラント界を支えてきた当会の名だたる先生方の骨造成のセッションを拝聴しながら、井汲前会長が提唱された全員発表会が行われる意味をかみしめる。

中間欠損の1本の埋入であっても診査診断の大切さ、重度歯周炎患者や下顎位の偏位を伴うケー

スに様々な診断機器を用い着実に設定したゴールに向かう姿勢、スキャナーや3Dプリンターを用いた必ず訪れる歯科界の未来と現時点での問題点など、4分で伝えきりたいという熱意と、すぐにでも自院に持ち帰りたいと食い入る会員の先生方の視線が、臨床研究会という名を表していると感じた。

ザ・ペニンシュラ東京での祝賀会・二次会では、そういった先生に会場では聞けなかった質問や、経営やプライベートの話などを伺い、気さくに夜遅くまで話して頂けるのも当会ならではの名物だ。

運営にご尽力いただいた先生方に本当に感謝です。ありがとうございました。

上原 久晴



今年日本インプラント臨床研究会が創立され45周年となります。それを記念しての創立45周年記念大会(第14回全員発表研修会)が7月14～15日東京ミッドタウン日比谷にて開催されました。92題にも及ぶ口頭発表と67題と例年より大幅に増えたポスター発表があり大いに盛り上がりました。

3Dプリンターや口腔内スキャナーについてなどデジタル歯科に関する最新のトピックスやインプラントを用いた咬合再構築、既存骨0mmの上顎洞底挙上術 再植・移植など幅広い範囲の発表があり伝統のある臨床研究会の底力をみる思いでした。

14日に行われた特別講演では《健康長寿のためのオーラルフレイル予防 インプラント治療との関わり》との演題で東京大学教授 飯島 勝矢先生の講演がありました。今注目されているフレイル。その前段階としてオーラルフレイルについて

インプラントを絡めて講演されました。また、15日のシンポジウムは全員参加型のシンポジウムであり、現在入手できる骨補填剤やメンブレンについてどれが多く選択されているかなど大変興味深くかつ臨床に即した内容でありました。個人的はマイクロの設備を持っている割合が4割もいたのは驚きでありました。

今回は業者さんのブースが離れたところにあり、サテライト会場としてコーヒーなどを飲みながら座って会場の発表を見ることができたのは、二日間という長丁場において大変ありがたいものでありました

全体を通じて明日からの臨床に大いに参考になる中身の濃い発表も多く、毎年のことながら素晴らしい準備をしてくださりました役員の方々、事務局および関係者の方々に深く感謝いたします。

矢田 孔太郎

日本インプラント臨床研究会 創立 45 周年 全員発表研修会

